

『ソク・サバーイ！ 続カンボジア・サッカー見聞録～牛の
向こうに未来が見える～』 Vol. 5

● J F Aサッカー1級審判インストラクター 唐木田 徹



「B I D Cカップ」のマネージャーズミーティングで

みなさんこんにちは。

カンボジア3大イベントの一つ、水祭りも無事？終わり、静かな日々が戻ってきました……となるはずでしたが、タイのタクシン元首相がカンボジアを訪れフンセン首相との「友好」関係を示したことから、プレアビヒア寺院の領有権を巡る衝突に留まらず、両国の

駐在大使召還にまでことは発展し、どうにも収まりがつかない状況になってきました。

われわれ日本人は、いわゆる島国「日本」に生まれ育っているので国境意識があまりありません。理屈では分かっていますが、実感というものがありません。昨今、対馬に韓国資本が押し寄せ問題視されたり、与那国島に自衛隊を置くか否かなど日本にも領土を巡る問題は存在するのですが、ともすると一般市民にはどこか遠いところの話のような気がしているのではないのでしょうか。



「B I D Cカップ」の審判団

さて、今回はアセッサーのお話です。

11月8日から14日まで「B I D Cカップ」という大会が開かれました。これはカンボジアに進出するベトナムの銀行「Bank for Investment and Development of Cambodia」がスポンサーとなって、カンボジアU-23、ラオスU-23とベトナムの2クラブチーム、計4チームで行われました。1日2試合、1日おきのリーグ戦の後、順位決定の3位決定戦と決勝で計8試合です。

カンボジアサッカー連盟がAFCへ審判とマッチコミッショナー、審判アセッサーの派遣を依頼しました。AFCからの返事は、「審判は割当するがMCとアセッサーは人手不足で派遣できない」、というものでした。サッカー連盟が、いつ派遣の依頼をしたかは知りません。私が、大会そのもののあることを知ったのは10日ほど前でした。私としては、カンボジアの若手審判（来年度国際審判登録済み）に経験を積ませたかったので、AFCへの依頼は反対でした。実際カンボジアとラオスはU-23のナショナルチームですが、ベトナムの2チームはクラブチームなので国際審判の必要がないからです。しかし、“時すでに遅し！”、です。



アセッサーの任に（2日目からネクタイはやめました、暑い……）

審判はカンボジア、ラオス、ベトナムの当事国と、第三国タイから主審・副審が指名されました。そしてアセッサーは……。大会2日前、この大会のコーディネーターでサッカー連盟の役員から電話がありました。「アセッサーできるか?」。私はAFCのアセッサーの資格を持っていません。心配事は二つ。AFCアセッサーではない私のアセスメントを、他国の国際審判が受け入れるか? もう一つは、大会本部がアセッサーフィーをちゃんと払うか?

フィーについては、AFC派遣であれば大会2日前から終了1日後までの期間×100ドル、往復の飛行機代、アシスタント1名、

移動の車、4つ星以上のホテル、すべての食事、が原則です。もちろん私の場合、移動も食事もホテルもありません。しかし、実働8日×100ドルをゲットして、たぶん雑用に使われて報酬も貰えない若手の審判たちにシェアしようとレターを作って持って行ったところ、「もうスポンサーと話について250ドル」と、取り付く島もなく話は終わってしまいました。“アセッサーフィーはスポンサーが払うのだから、もっとしっかり確保してもらいたかった！”、というのが本音です。



試合分析（普通はホテルの会議室、ですよね……）

とにもかくにも、アセッサーを引き受けました。

大会前日のトレーニングからスタートです。朝6：30、スタジアム。全体トレーニングの後、翌日の割当を考慮して主審2名、副審4名、4th2名の3グループで別メニューを行いました。トレーニングメニューが珍しいらしく、評判は上々。大会初日、朝6：30、スタジアムにてトレーニング。もちろん3グループ別メニュー。15：30から2試合。終了後、自宅でアセスメントレポート作成とミーティング用DVD作成。映像は2台のカメラを使い、別角度からも検証（就寝3時）。試合翌日、朝6：30、スタジアムでトレーニング。9時から約2時間、前日のビデオを使ってミーティング。この繰り返しが8日間続きました。

国際審判の彼らにとって私は、AFCアセッサーではないが、①年長者である、②日本のプロリーグでの実績がある、③トレーニングが面白い（内海さんのトレーニングやJFAのプラクティカルトレーニングをベースにアレンジ）、④映像を使った試合分析が初めてで真偽がクリアーになってよい、と概ね好評でした。おかげで大会もスムーズに進行し、大きなトラブルもなく全日程を終えることができました。



ビデオ係りの若手たち。なけなしのフィーからアルバイト代の支払いを…



審判団が主催してくれた食事会（女性は私の婚約者です）

「250ドルならその分しか働かない！」という手もありましたが、“やるからにはとことんやる、中途半端は性に合わない！”。

“根っから私は日本人だなあ……”と、この異国の地にて改めて感じ入った瞬間でした。

※『ソク・サバーイ』とは、クメール語で「元気です」「元気ですか？」（正式にはソク・サバーイ・テー？）の意。